

# N A T U R A L

ナ

チ

ユ

ラ

ル

vol. 11  
2013.6

発行／長野県知事登録事業者団体 長野県環境測定分析協会



信州自然探訪図鑑

## 北信濃カヤノ平高原



カヤノ平高原は上信越国立公園の中心地志賀高原の北に広がる高原です。標高千四百メートルから千七百メートルの間に広がるこの高原は周囲を高標山、鳥甲山、八剣山に囲まれ、高原はブナの天然樹海と白樺の群生林それにさまざまな種類の高山植物が見られます。

この辺り一帯はかつてブナの広大な森林に覆われていたところです。人手の入っていない本当の原生林は日本では数少なくなりました。ブナ林は日本で、本来は最も広い面積をもつ代表的な森林で、日本固有の種が多く、多様な動物相をもつ豊かな自然です。

ブナの幹には黒い苔のようなものが付く、これは地衣類で菌類と藻類の共生生物です。積雪によりはぎ取られることが多いため、最大積雪深の目安がわかります。

ブナ林の中では高木としてのブナが最も多くて、多くの場合ブナが90%以上を占めています。高木としてのミズナラ、カンバ、シナノキ、ハリキリ、が少し交じるだけです。

林内の亜高木としてコシアブラ、ハウチワカエデなど、低木としてはオオカメノキ、オオバクロモジ、ムラサキヤシオ、ノリウツギなどが生え、林床はシナノザサで覆われています。

ブナ原生林の緑のトンネルを抜けると、広い湿原が現れ、北ドブ湿原と南ドブ湿原の二か所の湿原があります。湿原の中央を観察路が通り、ベンチやあずまやがあります。湿原ハンターのモウセンゴケが群生し、ワタスゲ、タテヤマリンドウ、ハクサンチドリ、コバイケソウ、ギョウジャニンニクが見られ、7月から8月上旬にかけて咲くニッコウキスゲはブナ林に囲まれた湿原を埋め尽くし、南ドブ湿原では、ラン菌に依存する腐生ランのシヨウキランなども見ることができます。またここはチシマウスバスマミレが群生する場所で、南限の群生地として貴重な場所とされています。

写真・寄稿 株式会社公害技術センター 酒井今朝重



## あいさつ

長野県環境測定分析協会  
会長 勝野 宗一

日頃、監督指導官庁、関係団体、会員各位皆様には多大なるお力を賜り謹んで感謝御礼申しあげます。

ヨーロッパの金融危機、発展途上国の国内問題、自然災害、等々話題が蔓延しています。その中でニューリーダーが各国誕生しそれぞれ新たな構築が始まりつつあります。さて政権が代わり安部内閣が発足しましたアベノミクスなどマスコミに騒がれている

1.「金融緩和」2.「財政出動」3.「成長戦略」が提唱されない程の供給に端を発した急激な円安・株高となり輸出関連・金融関連を中心にデフレからインフレへとバブルの形成に進んでおります。しかしわれわれを取巻く環境は輸入物価の上昇(小麦、原油等)が先行し萎んだパイがそのまま

と言う状況下であり厳しいと言わざるを得ません。2.の矢もこれから、まして3.の矢について「海外展開」「健康長寿社会」「若者・女性対策」が発表された。必然的な項目と思われるが力強い矢とは感じられない、業界も外資導入、合併、提携など再編成化が進んで来ており暗雲(市場の縮小)の中で明日を模索し行動に移しております。このような状況下の中で環境問題では国境を越えたPM2.5が騒がれ又、福島第一原発事故由来放射線もだいたい騒がれなくなってきましたが息の長い問題で有ることに変わりがありません。

当協会の行動目標「技術レベルの向上」「コミュニケーションを深める」「各会員を尊重する」に沿って運営され評価出来るといえます。日本環境測定分析協会共催の新任者研修、県環境保全研究所の指導による専門研修、東日本震災地視察研修、技術発表研修、県指導による精度管理事業が行われ、技術部会員の基に会員及び未加入同業者が多く参加いたしました。これらを核

にして各目標がリンクされて活性化しております。

前ナチュラルに記した保科正行公の陸奥会津藩主を継いだ松平容保(かたもり)が本年のNHK大河ドラマに登場し会津藩祖正行の教え「会津家訓十五箇条」第一項(徳川本家を守る)を頑なに守って行動した結果の悲劇、加えて日新館「什の掟」の強い信念が今もって引き継がれており、今回起きた3.11東日本大震災に起因した福島第一原発事故による復興・復旧にも大いに一役を担っていると思われまます。

当会の上部団体である(一社)日本環境測定分析協会関東支部(1都10県)主催の環境セ

## 就任ごあいさつ

長野県環境部  
部長 山本 浩 司

今年の4月から長野県環境部長を務めております山本浩司でございます。

ミナリを本年は福島県郡山で「震災復興特別企画」と銘を打って7月18・19日開催されます。当協会の研究事例発表も有りますし、放射線核種分析機器メーカー二社による特別企画もあります。又来年は長野県で開催予定しておりますのでこれを機会に参加され知識の向上・情報交換・状況把握をして頂けたらと思えます。

終わりに現在まだ重く圧し掛かっているこの閉塞感を打破すべく皆様と力を合わせて前を向き進んで行きたいと思えますので宜しくお願い申し上げます。

長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から本県の環境行政の推進にご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、協会として技術研修会の開催や精度管理事業への参加等による会員の分析技術の向上に努められておりますことに敬意を表します。

本県は、四季の変化に富んだ全国でも有数の美しい自然に恵まれており、美しく豊かな自然環境を保全し次世代に引き継いでいくことが強く求められております。

本年度は、「長野県総合5か年計画」しあわせ信州創造プラン」また「第3次長野県環境基本計画」の初年度にあたり、県民、事業者、行政などあらゆる主体の参加と連携により各種の取り組みを行っているところでは、

また、水環境の保全については、従来から実施してきた水質保全対策に加え、目的不明な森林買取による水資源への懸念や、福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による水質汚染への不安の高まりなど、水環境を取り巻く新たな課題等に対応するため、「第5次長野県水環境保全総合計画」を策定し、水源地の保全にも重点的に取り組んでおります。

この計画においては、河川・湖沼等の環境基準点の達成状況を評価するために水質常時監視結果を活用しておりますが、年々民間委託の量を増やしています。この結果は、水環境行政の施策を検討

するうえで基礎資料であり、県民の関心も高いものとなっています。そのため、分析機関においては精度の向上を図ること等により、測定結果の信頼性を確保していくことが今後ますます求められております。協会の皆様におか

## 就任ごあいさつ



長野県環境保全研究所  
所長 倉沢 幸一

この4月から長野県環境保全研究所長を務めております倉沢幸一でございます。協会の皆様には、日頃より当研究所の業務の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、本県は国内でも有数の自然に恵まれ、豊かな環境を誇っておりますが、水資源の保全や快適な水環境の維持・継承あるいは地球温暖化や国境を越えた環境問題、生物多様性の保全等多

れましては、本県の環境の保全のために引き続きご尽力くださいますようお願いいたします。

今後の貴協会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝を心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

この課題も抱えております。このため、本年度を初年度とする第三次長野県環境基本計画や第5次長野県水環境保全総合計画に基づき、環境保全に向けた各種の取り組みを進めてまいります。当研究所ではこれらの行政施策を科学的、技術的な面からサポートすることとしております。

また、健康福祉の面では、中国における鳥インフルエンザウイルスA(H7N9)や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などへの対応、食品、医薬品の安全確保のための試験・検査など、県民生活の「安全と安心」のための取り組みも行ってまいります。

そのほか、東日本大震災での福島第一原子力発電所の事

故による放射能検査や中国からの飛来が懸念され最近話題となっている微小粒子状物質(PM2.5)の検査及び、これらの、研究所が行う様々な試験検査や調査研究、その成果を生かした学習・教育や研修、情報の発信などの業務を行っております。

貴協会の皆様には、日頃からこれら研究所の業務を通じて大変お世話になっておりますが、今日の複雑、多岐にわたる環境問題に対応するため

には、皆様方との協働が必要不可欠であり、貴協会の果たす役割はますます重要となつてきております。私どもも、

県民の多様化するニーズにこたえ、信頼される、開かれた研究所を目指して努力してまいりますので、引き続き一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。貴協会の益々

体の大きな責務であると思っております。

このような中で、貴協会におかれましては、昭和53年の設立以来、「様々な環境問題の調査・測定・コンサルティングを通して長野県民の大切な生活環境を守る」ことを使命とし、各種事業を展開されてきました。

とりわけ、分析技術の向上と信頼性の確保に向け積極的

## ナチュラル発刊に寄せて



長野県計量検定所  
所長 近藤 友巳

長野県計量検定所長の近藤友巳でございます。

長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から県の計量行政の推進に対し、大変ご理解とご協力を賜っておりますことに厚く感謝申し上げます。

さて、私どもの事務所は、松本合庁の5階にございますが、そこから見る景色は、澄んだ青空のもと、真っ白な雪を残す北アルプスの山々、その麓には目にも鮮やかな新緑の木々、豊かな水を湛えた水田など、長野県の自然や環境の素晴らしさを代表する風景が広がっています。

これは、長野県のかげがえのない財産であり、これからも大切に守り、活かし、そして未来の子供たちへとつなげていくことが、今日の社会全

私ども、計量検定所におきましても、県民生活や経済活動を確保していくため、各種の事業を展開しておりますが、とりわけ、環境の分野では貴協会、並びに会員の皆様と連携・協力しながら県民の安全・安心を計量の面から支えてまいりたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に、貴協会の一層のご活躍をご期待するとともに、会員の皆様の益々のご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。





# 長野県環境測定分析協会 宮城県復興視察レポート

(一社)長野県薬剤師会 黒岩直樹



南三陸町

松島町

仙台空港

福島第1原発

松本

松島町(瑞巖寺)

松島町は、内湾に位置するため津波高3m程度と被害が軽かった地域である。とはいえ、瑞巖寺境内も浸水し参道の杉が枯れ、伐採が始まっていた。参道横には津波到達点の標識が建てられていた。

瑞巖寺参道の枯れた杉の伐採跡(明るい右側)と津波到達点(破線)



浸水範囲概況図 10

**南三陸ホテル観洋(宿泊施設)**  
このホテルは自らも被災しながらも600人の被災者を受け入れ衣食住を提供し続け「町民を救った180日間」として有名である。  
地図から志津川湾は、かき、ほたて、わかめ、銀鮭などの豊かな養殖場であることを知った。瓦礫の中にも大量のいけすの浮きなどを見た。津波により壊滅的被害を受けたことが容易に想像できたが、ホテルより湾内を望むと点々と養殖用のいけすが確認でき、船が往来し、復興の兆しを感じる場面もあった。



浸水範囲概況図 12

### 瓦礫処理施設

東日本大震災により発生した膨大な量の災害廃棄物(瓦礫)は、本来市町村が処理することとされている。市町村が自ら処理することが困難な場合は、地方自治法による事務の委託により、県が主体となって災害廃棄物の処理を行うことが可能であり、これに基づき南三陸町他7地区に二次仮置場が建設され、平成26年3月を目標に、災害廃棄物の分別・破碎・焼却等の中間処理を行い、リサイクルや最終処分を行う予定。基本的に地区内の廃棄物を自前処理する目的であるが、他地区からの受け入れも予定している。(本施設は案内コースにないが、環境測定に関わる機関の視察ということで特別に配慮していただき案内してもらった)



集められ処理を待つ瓦礫



木材などの乾燥処理施設

内部で発熱が進み→湯気が出ている



凡例  
● 浸水範囲  
○ 撮影範囲  
国土地理院

### 戸倉中学校



1階部浸水した戸倉中学校



止まった時計

戸倉中学校は高台にあるが、1階部分が津波より浸水被害を受けた。避難時に生徒1名、教師2名が犠牲となった。校舎の外に掛る時計は地震発生時刻に止まったままであった。校庭には仮設住宅が建設され、そのすぐ脇の斜面は津波で浸食された崖のままであった。中学校の裏側からは戸倉地区の湾を見渡すことができ、浸水被害の全貌が一目瞭然であった。地盤の低下により海岸線はなくなり、土嚢が積まれているだけであったが、新たな堤防の建設が進んでおり計画高がわかった。また、新体育館落成後10日で流された戸倉小学校跡地についても説明があった。さらに、山際に目をやると杉の木が枯れており浸水ラインが明瞭であった。



津波浸水ライン  
←仮設住宅  
津波漂流物で中学校体育館を壊した跡↑  
←津波で浸食されたままの崖



津波浸水ライン  
戸倉小学校跡↑  
防潮堤計画高→



破壊された折立川河口水門

### 仙台空港



### 若林区海岸沿い

いたるところに瓦礫の山があり、搬入出の大型車で渋滞の発生している地区もあった。水田であったとみられる土地はまだ作付が再開されている様子はなく、仙台東部道路(高速道路)の海岸側ではしばらくこの車窓が続く。



集められた瓦礫の山(奥)と作付再開できない水田(手前)



仙台空港付近の瓦礫の山



### 南三陸さんさん商店街

2012年2月に、志津川地区にオープンした仮設商店街。復興をになう、家電や雑貨から地元の鮮魚を扱う店、飲食店など津波で店舗を失った、地元の事業者30店が軒を連ねる。

### 防災対策庁舎

報道でよく知られる、防災対策庁舎。入口には塔婆や献花が供えられ訪れる人は手をあわせていた。津波は屋上2mまで達し、避難した40余名うち助かったのは10名であった。庁舎を残すか取り壊すか様々な議論が行われている。



庁舎付近は70cmほど地盤が沈降し大潮時は海水が川を逆流し冠水する。写真はその跡。なめるとしょっぱい。





第12回

長環協ゴルフコンペ開催

総務部会

今年の長環協ゴルフコンペは、平成24年10月13日に三井の森 蓼科ゴルフ倶楽部にて開催しました。秋の気配が濃くなってきた蓼科高原にて絶好のゴルフ日和のもと、参加者11名で行われました。日頃の仕事のことは忘れ、和気あいあいとした雰囲気の中熱戦が繰り広げられました。

当日は、幹事の不手際により実力を発揮できなかった方が多数いらっしゃると思いますが、次回へのお楽しみということで勘弁してください。

結果は、幹事でありながら梅垣和彦さんがほとんど運だけで優勝し、協会長カップと豪華景品を手に収めました。

次回は秋に甲信越環境測定機関連連絡協議会と合同コンペを松本カントリークラブで予定致しますので、数多くの方のご参加をお待ちしています。



- ◆開催日/平成24年10月13日(土)
- ◆会場/三井の森 蓼科ゴルフ倶楽部
- ◆時間/9時3分スタート
- ◆競技方法/18ホール 新ペリア
- ◆費用/プレー・飲食費各自負担
- ◆競技結果

順位	氏名・所属	からまつ	しらかば	GROSS	H.C.	NET	備考
優勝	梅垣和彦 (株)コーエキ	49	50	99	24.0	75.0	
準優勝	小川浩司 (一社)長野県労働基準協会連合会	49	45	94	18.0	76.0	
3位	佐倉正晃 環境未来(株)	45	46	91	14.4	76.6	BG



(株)コーエキ 梅垣和彦さん

第12回長環協ゴルフコンペに優勝させていただき、同伴者に恵まれ楽しいひと時を過ごすことが出来ましたことありがとうございます。何回もコンペに参加させて頂いていますが、3位すら入ることが出来なかった私が多くの強豪がいる中から優勝できたのはこの上ない喜びです。

当日は幹事でしたが、キャディ付で予約しながらキャディが付かないというアクシデントがあり、最初からあたふたしてしまいゴルフをする心境ではなかったのですが、“良き同伴者に恵まれ”、“お天気に恵まれ”、“ハンディキャップに恵まれ”優勝が出来、これを糧に一層精進したいと思います。

「お先です。そんなパットが 入らない。」



## 2013環境技術専門研修のお知らせ

### 1.環境技術研修

- 日時:平成25年7月上旬の2日間
- 場所:未定
- 研修内容:環境概論、環境事業の現状、化学実験器具操作法の基礎、労働安全衛生、試薬の取り扱い、サンプリング、測定値から報告値の取り扱い

### 2.技術専門研修

- 日時:未定
- 場所:未定
- 研修内容:高速液体クロマトグラフ、イオンクロマトグラフ、水質分析、金属類分析、細菌検査、騒音、振動、農業分析、放射性物質

◆技術専門研修は長野県環境保全研究所のご協力をいただき実施します。  
内容、日程等詳しい要項は後日連絡いたします。

Report2012

### 環境技術専門研修をうけて

(株)エスコ  
事業推進部 農業分析グループ 瀧澤理恵

昨年の10月に高速液体クロマトグラフ研修を受講しました。機器の取扱いだけでなく、固相抽出からHPLCでの定量までという農業分析の流れを通した実習内容でしたので、試験全体の理解を深められ、とても有意義に学ぶことが出来ました。

HPLCの基本操作や試験溶液の調製方法のコツなど、他機関での研修は学ぶべきところが多く、自分自身のこれまでのやり方を見直す良い機会となり勉強になりました。受講生が少人数だったこともあり質問しやすい雰囲気、些細な疑問にも丁寧に回答していただき有難かったです。

研修で学んだことや得たものを今後活かし、より精度の高い分析を目指していきたいと思っております。



※1μmは1mmの1/1000

検査、学校環境衛生検査等の拠点として、検査機器・器具の整備、検査体制の充実と検査員の育成・指導に努めてきました。昭和61年には、有数の温泉を有



昭和50年の計量法改正により、計量証明事業が誕生した訳ですが、当初の分析機器は、pH計、天秤、原子吸光度計、分光光度計、数種類の検出器付きのガススクロなどが関の山で、試料の分解、抽出、定量と、専ら手分析が主体でした。器具も吸収ビンや秤量ビンなどは、オーダーメイドで対応したこともありました。市販の硬質ガラスビ



ーカーの中には、鉛が溶出するものもあって、選別にも、また、試薬ブランクにも気を配りました。当協会技術部会の一員として、当初から参加させていただき、測定分析結果の表示方法の統一や、県環保研(旧県衛公研)のご協力のもとでクロスチェックの実施、小型焼却炉排ガス中のダイオキシン類試料採取の条件統一などにも係わらせていただきました。会員各位の重鎮の皆様との交流や、天竜川水系24時間水質調査の参加も、なつかしく、皆様に感謝申し上げます。

わが社の  
スペシャリスト

第1回

回顧

矢澤 利一さん

事業所訪問

第11回

松本市

一般社団法人長野県薬剤師会検査センター

当検査センターを運営している長野県薬剤師会は、本年創立122年を迎える公益法人で、この4月1日からは、公益法人制度改革に伴い一般社団法人へ移行しました。

明治23年に設立した本会は、公衆の厚生福祉の増進に寄与するため、薬剤師の倫理的及び学術的水準を高め、薬学及び薬業の進歩発達を図ることを目的として、薬事衛生の向上普及、公衆・環境衛生活動等を通じて、地域社会に貢献する

ため、各職域で活動する薬剤師2,200余名で組織しています。昭和30年代初頭より薬剤師会は、薬剤師の化学分析技術を活かして各保健所の環境衛生業務に協力をしてきましたが、高度経済成長に伴い多発した公害問題や公衆衛生、生活環境保全問題などに対応するため、昭和47年に行政の強い要請もあって検査センターを設置しました。以来、県民の健康の保持増進に寄与するため、水道水、温泉水、事業所排水等の公衆衛生・環境衛生関係検査、医薬品等の薬事衛生関係

検査、学校環境衛生検査等の拠点として、検査機器・器具の整備、検査体制の充実と検査員の育成・指導に努めてきました。昭和61年には、有数の温泉を有

する長野県にあって、その活用を図るため、温泉分析機関の指定を受け、平成14年には登録機関として現在に至っています。また、平成24年には、国際規格のISO/IEC17025:2005の認定を受けました。

さらに、災害時における管理体制の強化と水質汚染事故に対し、迅速な対応を図るため、各市町村と「水道汚染」に対する緊急措置に関する協定」を締結するなど、環境リスクマネジメントにも努めています。今後、安心・安全に向け、精度管理の徹底と信頼性の高い試験検査に努めてまいりたいと思えます。宜しくお願ひ申し上げます。



賛助会員ご紹介

株式会社 理学

当社は、昭十七年 十人の酒好き、山好きが集まり、作った会社です。

設立以来四一年が経過し、設立同人の中には故人となられた方々もおられます。当社は設立以来、理化学・分析機器を主に後発ディラーの為、海外の分析機器も多数取扱、県内の大学・官庁の研究室及び民間の研究開発部門・環境検査機関等に最新の機器を紹介し、各分野の発展に貢献してまいりました。いままでは分析機器等を販売及びメンテナンスする側だけでしたが、一昨年より当社では、産学共同研究を進め、機器の使用者側の経験を得、お客様に対しより実践的なお仕事の手伝いが出来ればと、日々努力いたしております。

また産学共同研究により、当社の第三の事業として、新素材開発及び製造販売までやろうと、特許出願をすまし、ただいま精力的に準備中であります。

また三〇年ほど前、当時新たな事業として、故武田専務(当時)を中心に環境計測



本社/松本市桐 3丁目1番23号  
TEL.0263-35-6171 FAX.0263-35-4460

機器及び土木計測機器の販売またその施工工事、その後の受託計測業務を行う計測技術部門を立ち上げ、最近は大規模土木事業は少なくなりましたが、一昨年の原子力発電所の事故に伴い、今後水力・風力・地熱・太陽光発電に注力を集め、当社にも追い風になるのではと期待しております。いずれに致しましても、この美しい自然がいっぱい残る信州を次世代に残せるよう、社員一丸となって努力いたします所存でございます。

今後とも皆様のようにっさうのご指導と、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

私の趣味自慢

株式会社 北信理化学

宮入拓也さん

私の趣味と言えば釣りとフットサルです。

釣りは中学時代から近所の川や池に通い楽しんでいました。今では昔以上に釣りにハマリ、昨年やつと念願の小型2級船舶免許を取得しました。

早起きは得意な方なので釣りに行き太陽が昇ってくるのときの爽快感と魚を釣上げた時の喜びは何度味わっても飽きません。釣りの醍醐味は魚を釣った時もそうですが、推理小説のように魚が今どんな場所を泳いでいるのか?どんなものを食べているのか?などを考えながら魚にアプローチし思い通りに魚が釣れた時のプロセスも魅力の一つだと思います。



そしてフットサルですが、日韓ワールドカップに影響されたのが始まりです。おかげさまで昨年夏に10周年を迎えました。

学生から社会人まで、さまざまな年齢や職業の人達とフットサルを通して体を動かしながら、時にはお酒を飲みながら色んな話をするのが楽しみです。

年齢を重ねるごとに運動から遠ざかる一方ですが、釣りもフットサルも自然の中で体を動かしてフレッシュが出来る趣味なので是非皆さんも興味がありましたら始めてみてはいかがでしょうか?

長野県環境測定分析協会正会員一覧

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>北信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(一社)長野市薬剤師会</li> <li>ユートピア産業 株式会社</li> <li>株式会社 ネイテック</li> <li>(一社)長野県労働基準協会連合会環境測定部長野測定所</li> <li>株式会社 科学技術開発センター</li> <li>(一社)長野県農村工業研究所</li> <li>直富商事 株式会社 環境計量証明事業所</li> <li>株式会社 エスコ</li> <li>株式会社 ワールドエコ 環境分析センター</li> </ul> | <p><b>東信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社 信濃公害研究所</li> <li>(一社)上田薬剤師会検査センター</li> <li>日本プレーティング 株式会社</li> <li>株式会社 東信公害研究所</li> <li>(一社)長野県労働基準協会連合会環境測定部上田測定所</li> </ul> <p><b>中信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社 環境技術センター</li> <li>(一社)長野県薬剤師会検査センター</li> <li>有限会社 林薬局</li> <li>(一社)長野県労働基準協会連合会環境測定部松本測定所</li> </ul> | <p><b>南信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社 公害技術センター</li> <li>環境未来 株式会社</li> <li>(公財)自然農法国際研究開発センター農業試験所</li> <li>株式会社 環境科学</li> <li>株式会社 コーエキ</li> <li>(一社)上伊那薬剤師会</li> <li>(財)中部公衆医学研究所</li> <li>(一社)長野県労働基準協会連合会環境測定部諏訪測定所</li> <li>南信環境管理センター 株式会社</li> </ul> |
|--|---|--|

編集後記

大気汚染の原因とされる微小粒子状物質「PM<sub>2.5</sub>」が中国から飛来している問題で、環境省は、都道府県が住民へ外出の自粛などを注意喚起することを柱とする暫定指針を定めるとともに、国や自治体は周知に努めることにも、観測体制の整備や健康への影響の監視など国内の対策を急ぐ必要があります。

中国大陸から黄砂が多く飛来する3~5月は「PM<sub>2.5</sub>」の濃度が高まる可能性があります。この「国境を越えた環境問題」に対し国内で広がる不安と戸惑いに、当初静観していた国もようやく重い腰を上げた形です。

西日本を中心とする自治体では、ホームページにおいてリアルタイムに測定数値を公表し、飛散の予報が確認できるよう情報提供を行うことが当たり前になってきています。

アスベスト、放射能、そして「PM<sub>2.5</sub>」、原因やその影響は様々ですが、目に見えないものを正確・迅速に数値化し、常時監視することで、安心・安全を客観的に示すことが求められています。

環境計量証明事業が社会的にも大きな役割を担っていることを今更ながら痛感いたします。

皆様のご協力により、ナチュラルを無事発行することができました。原稿をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げます。

発行 長野県環境測定分析協会  
〒380-0001  
長野市大字北長池字南長池地2088-3  
環境科学技術開発センター  
TEL.0263-35-6171  
FAX.0263-35-4460

部長 若林恒雄(環境未来センター)  
副部長 梅垣和(コーエキ)  
小林孝一(日本プレーティング)  
原 毅(中部公衆医学研究所)  
川井寛哉(環境未来センター)  
白井賢治(環境未来センター)  
小川浩司(長野県労働基準協会連合会)  
小川浩司(長野県労働基準協会連合会)  
小川浩司(長野県労働基準協会連合会)  
小川浩司(長野県労働基準協会連合会)  
小川浩司(長野県労働基準協会連合会)  
小川浩司(長野県労働基準協会連合会)

制作 株式会社 エスコ  
TEL.0263-35-6171